

## 令和5年度 第二回燕市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年10月26日(木) 午後3時30分～午後4時30分

2 開催場所 会議室301

3 出席者の氏名

市 長 鈴木 力

教育委員会

教 育 長 小林 靖 直

教育長職務代理者 中 野 信 男

委 員 秦 久 美 子

委 員 斎 藤 純 郎

委 員 小 林 恵 子

委 員 上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長 岡 部 清 美 教育委員会主幹 大 森 亨

学 校 教 育 課 長 和 俊 社会教育課長 石 黒 昭 彦

統 括 指 導 主 事 小 池 純 一 スポーツ推進室長 廣 瀬 雅 則

指 導 主 事 小 林 大 介

5 事務局書記

学校教育課 大 塚 小 由 紀 他 2 名

6 傍聴人 なし

7 意見交換

(1) 「部活動の地域移行 ～令和5年7月以降の取組状況～」について

次第 別紙のとおり (2 ページ)

意見交換 (概要) 別紙のとおり (3 ページ以降)

令和5年度  
第二回燕市総合教育会議  
<次 第>

令和5年10月26日(木)午後3時30分から  
会場：会議室301

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

(検討テーマ)

「部活動の地域移行 ～ 令和5年7月以降の取組状況 ～」について

4 閉 会

1. 開会宣言 午後3時30分

2. 市長挨拶

日頃、教育行政にご理解いただきますことを感謝申し上げます。

今年度2回目ということで、今回は子育て支援策について意見交換をしていただきました。今回は部活の地域移行ということで、委員の皆さんは具体的な話をすでにお聞きになっているかもしれません。

今日は皆さん一緒になって、教育委員会事務局に質問しようというスタンスでお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

3. 意見交換

「部活動の地域移行 ～令和5年度7月以降の取組状況～」について

小林指導主事より、事業の進捗、成果、課題などについて資料説明を行い、その後に意見交換を行った。

○市長

今説明がありました地域移行について、皆さんからご意見、あるいはこんな声が届いているとか、自由な発言をしていただきたい。

○委員（小林恵子）

来年度は月2回程度の活動、かつ全種目になると、会場はどうなるのか。また土日にある冠大会の参加はどうなるのか。日曜日に冠大会があり、その時に地域の活動日にあたっているとなった時は、地域の活動を休みにして他の日に振り替えるという形になるのか。最終的にどんどん増やしていき、休日のほうはできれば地域移行でやっていくということになるのであれば、そういうことも頭に置いたうえで考えていかないといけない。土日が地域の活動日であっても大会等が入った場合は部活動顧問が引率・参加する地域もあると聞く。中体連の大会なら部活動顧問が引率するのは当然だが、休日に行われる冠大会の場合は、指導員の方に引率を依頼し、地域クラブとして参加できないか。

○指導主事（小林大介）

土日に大会があった場合の取り扱いは、今後色々な面で大きな課題としてあがっている。県が令和8年度から原則全ての休日を地域活動に移行するという打ち出しをしているが、平日は部活動で行っていくところがまだ残ると思われる。そうなるとそのズレによって、どうしたらいいのかというところがかなり出てくると思っている。実際、冠大会だとしたら、出場すべき大会なのかどうか精選して、選択していきましようと言われていところでもあるので、そういった考えを進めるひとつのきっかけにもなると考えているし、現在設置されている部活動指導員は、教員の引率なしでも引率

できる形態となっている。また地域クラブとして大会に参加することも、今後多くなってくるのではないかと考えている。

○委員（斎藤純郎）

現在は限られたスポーツだが、来年度から全ての運動部が地域移行で休日に月2回程度できればいいという声もあるが、実現の可能性はいかがか。

○指導主事（小林大介）

当初、令和6年度からの地域移行は、令和5年度に始まった4つのスポーツと5スポーツ1文化活動ということで考えていた。1文化活動は吹奏楽部であり、市内5校すべてに設置しているが、楽器の移動や地域クラブの活動としたときに、体育館は地域活動としてのセキュリティが学校とは違うところに設置してある。音楽室はどうしても学校の中に入らなければならないということで、様々な課題が残っている。現状では吹奏楽部は難しい。5つの種目を地域移行新たにしようとしていたことを考えると、令和6年度9種目のスポーツを対象とした。そこに燕市の他の学校に設置されている9種目以外の柔道、体操、カラーガードが、それぞれ1校ずつにしか設置されてなかったもので、吹奏楽5校分だとしたら5から3に数としては減っているということで、全体として全てのスポーツと聞くときとすごく増える印象になるが、現実的にできるのではないかと考えている。

○委員（斎藤純郎）

その場合、指導者の確保が大変だと思うが、今後どのように呼びかけを行っていくのか。

○指導主事（小林大介）

まず、教職員の兼職兼業をお願いすることが大きなことだと思っている。教職員の兼職兼業アンケートでみると、カラーガード以外では希望者が少なからずいるという現状である。スポーツ少年団や協会の方にもアンケートを行っていて、積極的に係わりたいという具体的な問い合わせも来ている。発信を今まで以上に強化していくことで確保に努めたい。

また、指導の専門家ではないが、コーチングアシスタントを、指導者が活動できない時にフォローする役割として設置すると良いのではないかというアドバイスを、検討委員会委員長から提案いただいていることもあり、検討していく。

○委員（斎藤純郎）

市役所の職員も特技を持っていて指導力のある方もいるが、市役所の職員にも声をかける可能性はあるか。

○指導主事（小林大介）

できれば協力してもらいたいと思っている。

○委員（斎藤純郎）

以前、市長から小説『この夏の星を見る』を読んで感動したという話を聞き、自分も読んでみた。ストーリーには、生徒数が少ない中学校に入学した生徒が自分の望む部活がないため、あまり気乗りしない部活に入ることになったけれども、様々な出会いがあって自分の可能性が広がっていく姿が描かれており、大変感動した。中学生の時代に色々なことにチャレンジすることにより、気づきや成長があり自分の可能性が広がると思う。そういう意味では、地域移行で普通の学校の部活では得られないような活動ができれば理想だと思うので、大変だと思うが燕市バージョンとして少しずつ実現できればよいと思う。

○委員（上田佳澄）

燕市にはサッカー部がないことがわかったが、地域にあるサッカークラブ、ユースに入っている子どもたちの活動を部活動として認めていただけないか。現状では部活動に入っていたという内申がつかない可能性があるというのを聞いた。部活動には入っていないが、サッカークラブで活動をしていますというのを学校側で認めてもらえたらいいのではないかと。市長はどう思われるか。

○市長

いいと思う。ぜひそうしてもらいたい。

○委員（上田佳澄）

高校受験には内申書がつきものなので、地域移行に文化部も絡めていくのであれば考えてほしい。今は運動部を重点的にされているが、吹奏楽部は無理だということがよくわかる。だが、たまには文化センターや大きな体育館を借りて、学校から楽器を一生懸命持って行って、有名な吹奏楽団の人に指導をしてもらうような、合同指導会のようなものができたらいいと思う。

○市長

内申書は部活動に入っているかどうかは重要か。

○委員（小林恵子）

中学校の調査書には生徒が頑張ったことが記載される。例えば、その学校に水泳部がなくても水泳クラブに所属し大会で入賞した場合は、朝会で賞状伝達をしたり、調査書に記載されるのが一般的である。ただ、地域のクラブに所属していただければ記載されない可能性が高いと思う。

○指導主事（小林大介）

文化活動に関する補足をする、吹奏楽以外の文化活動の要望もありますし、教職員のアンケートをとったところ、美術を教えることを希望する先生もいたので、来年度はスポーツということで進めるが、今後は文化活動にも広げていきたいと考えている。

○市長

教職員の兼職兼業というのは、今勤めている学校でということなのか、それとも他市の学校勤務だが、燕市民なので燕市のクラブでの指導も可能なのか。

○指導主事（小林大介）

希望があれば可能。他市に限らず燕市内で他地区でも可能である。

○委員（秦久美子）

内申のことで少し思ったことがある。今の中学校では必ず部活動に所属しなければならないのか。上の子の時は必須だったが、下の子の時は所属しなくても、放課後は個々に自由に有意義に使ってくださうという校長先生の意向で、必ず参加ではありませんとなったので、市内中学校は自由参加ということで良かったか。内申書の部活動に関して、大会で賞を取ったとか、部活動の部長をしてみんなを引っ張ってきたとか、先生が認めたようなことを書くようなこともないのか。

○学校教育課長（長和俊）

今は書く場所が非常に狭くなっている。他の所で活躍したことなど、本人にとってプラスになることは極力伝えたいということで、限られたスペースの中で書いていると認識している。所属についても文字情報として記載している。部活は全員参加ではなくて、入ってほしいという希望はあるが、強制ではない。

○委員（秦久美子）

中学校と地域クラブで、違う種目に参加することは可能か。

○指導主事（小林大介）

今年度は様々な都合で出来なかったが、来年度はできるようにしたいと考えている。

○委員（中野信男）

少し前に小中学校発展を願う会があり、現在小中学校に通われている子どものお母さん方が出席されていた。会の役員の方の話では、自身のお子さんのことなので、切実に感じられて周囲の人からは鋭いと思われる意見、質問をされていた。部活動のいきいき地域クラブについて、お母さん方があまり説明を受けていないと感じる質問や意見であった。一番大切なのは生徒や保護者への説明だと思うが、それがあまりなされていないと感じた。そのため、「燕市部活動の在り方に係る方針」が腑に落ちないのではないかと思う。言葉で伝えても短い文章で書かざるを得ないので、腑に落ちないのではないかと思う。なぜこれをやるかの真意が、理解できないのではないかという気がした。もう少し理解してもらえるように取組をすべきではないだろうか。

○指導主事（小林大介）

説明の機会が十分でなかったということで、今後説明を増やしていきたいと思う。腑に落ちる説明というのは、ひとりひとりの考え方が異なっていて難しい。自分自身も部活動がなくなるのがすごく寂しい気持ちもよくわかるが、小さい学校にいと子どもが部活動を選べない状況であったり、もしくは学校の先生以外の、地域で活躍する大人と係わる機会がこれによって生まれて、将来的にその地域の魅力に触れる機会や、あらゆる力が生まれてくるという、地域づくりの視点からもすごく魅力的だと感じている。

○市長

最初に聞いた時は、教員の多忙化から始まって、土日は残業させられないから、土日は部活をやめますという説明から入っていった。今日は少子化が進み、望む部活動がない学校が多くなってきた、ということで大分こなれてきたが、その説明を聞くと、やりたい部活がこの学校にあるにもかかわらず、望む部活がないから土日は別でやれというのは全く腑に落ちない。やりたい部活がないのならこういう仕組みがあるのは納得できる。だが野球、バドミントンは学校にあるのだから、このままやってくればいいのかと思う。そういったところの疑問をいかに説明するのだが、なかなか難しく、そうすると教員の多忙化でということに戻ってしまう。腑に落ちる説明となると難しい。

○指導主事（小林大介）

なかなか難しいが、効率と公正の両面で考えると、自分の学校にはあるからこのままのほうが効率的でスムーズではある。だけど公正的な立場で考えると、確かにあなたの学校にはあるけれど、ない人たちもいるのですよと、その両方からも少し距離がでるかもしれないけれど、市全体としてはその種目を設置して選ぶことができるという意味では、変えていくことが公正を実現するための一歩になるのではないかと、ということではいかがか。

○市長

子どもたちはそれで納得してもらおうほかないと思うが、親は多分納得しない。

○委員（秦久美子）

普段は同じ中学の仲間と一緒に練習して技術を磨き、仲間意識を高めたり、土日には大会だと敵同士の違う学校の子たちと一緒にやったり、参加できる子はスポーツクラブで練習できるが、家庭の事情で練習会場が遠く、家の人から送ってもらえないとか、天気が悪くて自転車でもいけないとか、そんな時もあるかと思う。

子どもたちは新しい環境に入ると順応性が高い。新しい環境の中で自分を磨いたり、違う学校の生徒たちと競い合うことで、新しい能力が出てきたり、自分自身を高めることができる。技術を切磋琢磨して磨いていけるという、新しい環境ができることは、子どもたちにとってプラスになることがいっぱいだと思う。サッカーやラグビーの日本代表も普段は別のチームで戦っているのに、日本代表となると色々なチームから寄せ集めて、一緒に練習する時間は短いですが、いざ試合となるとチームプレー

はすごい。どのチームに入っても存分に自分の力を発揮できるくらいの、力を磨き上げる場所であってほしいと思う。そういうところを、保護者の方たちに訴えかけて、そんなだったらうちの子どもたちも、プロ野球選手になれるかもしれない、それだったら送り迎えもしてもいいかも、と思ってもらえるようにプッシュしたらどうか。

○市長

ぜひ、採用してもらいたい。

○委員（小林恵子）

燕中、吉田中には15の部活があるが、すべての部活に専門性の技術を備えた指導者の先生がついているかとういと定かではない。そうなる兼職兼業を願い出た先生方は、自信があるし指導する力があると自身で思っている。そういう先生が休日の指導にあたるというのは、技術的に高まるし、いろんなノウハウを教えていただくいい機会なので、子どもたちにとっては非常に良いことが多いと思う。

○市長

どんどん腑に落ちる内容が出てきて良かった。この会議の意義がある。

○委員（斎藤純郎）

学校の部活では他校はライバルだが、地域移行で土日休日だけでも、他校の生徒と交流することにより様々なことを学ぶことができると思うし、更に自分たちが伸びる可能性があると思う。そこを前面に出して、できるところから前に進めたらどうか。

○市長

そういった色々な経験が必要になる時代で、そういうロジックで攻めていかないといけない。

○委員（中野信男）

燕市は率先してやっているが、他の市町村は先にやっているところの様子見をしているところが多いように思える。燕市の教育委員会は真に評価されてよいと思う。他は成功事例を見て真似しようとする。だが、苦勞しながら、今これだけいろいろ問題が出ていて、苦情も来ているのに率先してやっていて、これは応援せざるを得ないと私は思う。

○市長

私ができることは予算を切らないこと。スポーツとか今やっている路線の中で、マイナーな部分の子どもたちの受け皿として、今やっていることと違う体験や貴重な集う場ということを考えると、「長善館学習塾中学版」や「まちあそび部中学生版」など、新しい活動を土日に皆さんしようじゃないかみたいなことを、教育委員会でやるっていうのは、まさに燕方式になるような気がする。



長善館学習塾小学生版はすごい。子ども広報の発表があったが、今年のチームは非常に良いチーム編成で仲が良く、一人だけ飛び出ているわけではなく、みんなが良かった。

○委員（上田佳澄）

今のところ未来いきいき地域クラブとしては、陸上、バスケットボール、バレーボール、バドミントンだが、それ以外で指導者を募集している部活動、学校の具体的な募集状況が分かれば伺いたい。

○指導主事（小林大介）

現在、外部指導者として広く学校の部活動に関わっている方々を調査中。さらに大会の引率もできる部活動指導員という形だと、結構多くの方にかかわってもらっている。今年度もこの部活動指導員の方から、かなり地域クラブの指導者になっていただいたので、そういう面からもかなり見込めると考えている。

○委員（上田佳澄）

では、これからもっと増えていく可能性があるということか。今、人がいなくて大変だという感じではないということか。

○指導主事（小林大介）

その方々に丁寧に説明をすることによって、協力しよう、やってみよう、となるように勧めていきたいと考えている。

○委員（上田佳澄）

ではその分、予算をとということになる。

○委員（中野信男）

燕市にはいくつかのスポーツ少年団があるが、未来いきいき地域クラブとの関係は将来一緒になるのか、あるいは全く別のものとするのか。

○指導主事（小林大介）

スポーツ少年団として活動している中でも、一部の子どもを強くするために専門的に育てたいという方もいる。未来いきいき地域クラブは、より広い燕市全体のどんな生徒でも対象になるように、ということ考えている。その趣旨に沿って選択できるようにしていきたい。

○委員（中野信男）

私の考えでは、将来は教育委員会が直接に関与しない地域クラブになるのかと考えていた。将来像を考えると、その在り方は、現在あるスポーツ少年団と同じになっていくのではないかという気がする。将来も地域クラブに関して教育委員会が関与していくのか。

○指導主事（小林大介）

将来的にはスポーツ協会が中心となって運営を担っていき、その中で今までの部活動の受け皿としての未来いきいき地域クラブの部分と、専門的なスポーツ少年団の強くする部分、民間のクラブなど、様々なところが受け皿となるうちのひとつとして、未来いきいき地域クラブという様々な種目を選ぶことができる環境を提供する、ということが必要だと考えている。重なる部分と少し違う部分と両面が出てくるのかなと考えている。

○市長

中野委員が言われた、実際燕市にあるスポーツ少年団はかなりの部分で同じ理想、思想を掲げた団体が多い気がする。

○委員（中野信男）

初めの頃は、両者は趣旨をある程度整合性を持たせるが、時代とともに状況が変わっていくと思う。それとともに教育委員会の係わりが減ってくると、市長が言われたとおり現在のスポーツ少年団と違いが少なくなってくるのではないか。そういうイメージで将来像を描いているのかどうか。

○指導主事（小林大介）

そこまで大きく将来像を考えていなかったが、確かに大きく考えると将来的にそうなる部分もでるのかもしれない。

○市長

おそらく種目によって違うと思うが、学校単位でない種目はそういう形になっていくかもしれないが、野球などは小学校ごとになっている。その上の中学校は違うみたいな話になるから、そこはプロ野球選手を育てようと思わないけれど、俺たちのこのエリアでやりたいみたいな。そもそも小学校のスポーツ少年団は保護者が自分の子どもの時だけで、全体の面倒を見るという感じではないと思う。

○指導主事（小林大介）

未来いきいき地域クラブは指導者に対する謝金が用意されているというところが、他のスポーツ団体とは違うところで、そういうところがひとつになっていくという過程で考えられるのかなと思う。

○市長

かなり早い段階で平日も取り組もうというふうに、燕市教育委員会は意気込んでいるが、先ほどの意見を聞いていて、平日はこうで、土日はこうでというのはやりにくい。早く一緒にしてしまったほうが、子どもたちのためになるという納得感がより形になるという意味で、教育委員会が一生懸命やろうとしているのだなというのが、今日のやりとりを聞いて私なりに腑に落ちた。

○委員（小林恵子）

平日に練習日が広がってくると、参加するお子さんの保護者の送迎の協力が、難しくなってくるのではないかと。部活の時間帯で活動を始めるとなると、保護者はまだ仕事で送迎できないのでは。子どもが移動できる距離であれば問題ないが、将来的にどうなるのか。

○指導主事（小林大介）

そういうところが検討事項としてあがる場所。他の市町村では市としてマイクロバスを使用しているところもある。できるだけ居住地の中で、複数の種目が選べるようにしたいと考えている。平日の5日間、全て指導することができるクラブはおそらく現実的でないと思われる。2日間や3日間のクラブに入って2種目を体験することができるということが出てくると、今までの日本のスポーツ活動や文化活動と違って、特化するのではなく、様々なことを並行して体験していくということにもつながると思っている。小林委員の直接の回答にはなっていないが様々な可能性を探っていきたいと考えている。

○市長

結果的に負担金を取るということになると思うが、皆さんの意見を聞かせてほしい。

○指導主事（小林大介）

休日の場合、月1,000円で考えている。

○委員（斎藤純郎）

困窮世帯には配慮が必要だが、負担金をもらうのはある程度必要だと思う。

○市長

腑に落ちる理論とセットで、だからお金を出してもいいというように、理解していただく。今、野球部で活動しているのに、よそに行かされてなぜお金まで払わないといけないのか、というところを、別の腑に落ちる理論で、これには意味があって、より自分のためになると上手く説明していかないといけない。

○委員（中野信男）

現在、部活動ではお金は徴収しているのか。

○指導主事（小林大介）

部活動加入費として学校で年間500円から1,000円、部活動に入っていない子からも、徴収している学校もある。その他にそれぞれの部活に必要な経費があれば徴収している。

○委員（秦久美子）

遠征の時はバス代など、人数割をしたり、必要な経費は、その都度徴収されていた。

○委員（中野信男）

全体に考えると、活動すればするほどお金がかかる。学校で補助をしてもらえる範囲なら良いが、基本的には遠征となるとお金がかかるので、低所得者世帯には支援していく必要があると思う。参加している人の負担を求めるのは、長く続けていくには必要かと思う。自分の子どもがスポーツ少年団に入っていた時は、親が送迎したり、遠征費を払ったり、時と場合によっては近くの子どもを乗せたり、乗せてもらったりしていた。スポーツ少年団ではそのようにやっているものと思われる。

○市長

様々なご意見をいただいた。以上で、意見交換は終了とする。

4. 閉 会      午後4時30分